

令和4年度主な事業の説明

1 定例役員会議・四役会議

定例会議は、続くコロナ禍でしたが、感染防止対策に十分留意し、公民館にて、3月、5月、7月、9月、11月、2月の計6回開催。四役会議は、定期の定例会議前と必要に応じて随時開催しました。



5月14日役員会議でハザードマップを紹介

2 牟佐大塚古墳と歴史の道ウォーク ver.4

12月4日、コロナ対策を十分に実施した上で、4回目を開催。町外から21名(町内8名)の参加で、植田章夫さん(旭)のスライド紹介「牟佐の歴史概観」で始まり、メインの草原文化財課長は急きょ欠席となりましたが、植田さんの絶妙の展開で、予定通りの時間で進行できました。高蔵神社扁額(市重要文化財)の見学から牟佐大塚古墳へ移動。



(歴史ウォーク動画)

古墳見学では、シニアクラブ牟佐(会長:鏡原憲二さん(昭和会))スタッフが発電機を使い古墳内を照らし、玄室内にて石棺を囲む見学者に直接説明。扁額の見学～渡場まで至るウォーク全体の案内役は平井誠さん(渡場)。参加者には「産地牟佐」のイノシシ革で作ったオリジナルタグを配布。公民館では「産地牟佐塾」の皆さんがイノシシ皮革製品を、農家の方には新鮮野菜の販売をお願いしました。



座学担当は植田章夫さん



大塚古墳紹介は鏡原憲二さん



高蔵神社扁額から渡場跡、屋号紹介、歴史ウォークのルート全体案内は、平井誠さん

3 電子町内会運営委員会

コロナ禍をふまえ、オンライン(Zoom)の活用にも取り組み、毎月の会議を開催しました。電子町内会は2002年からの取り組みで、満21年。その間、ウェブサイト管理者は、変わらず安藤洋一さん(寿)に務めていただいて、運営委員会は毎月開催してきました。電子町内会のシステム改修により、途中から会議室機能がなくなったため、その機能として現在は Facebook グループを活用し、カレンダーは Google を活用。さらに、運営委員会は、町内会新聞の編集・発行を担っています(関連後掲5)。

4 防災・減災対策

- (1) 災害時要支援者の避難行動支援個別計画について、牟佐げんきさんと協議を進めています。
- (2) 車を持たない避難者のための、送迎付き避難訓練の試行を計画するも、環太平洋大学側との調整つかず未実施。

5 町内会新聞の発行

コロナ禍でしたが、オンライン会議も活用しながら1月、6月の2回発行。電子町内会運営委員会が、取材、編集を行っています。アイデアを出し合いながら編集を続けています。



12月10日町内会新聞元旦号の編集会議

6 区づくり推進事業(平成29年度~令和4年度)

「産地牟佐」にこだわった地域の活性化をテーマに、平成29年度の区づくり推進事業に採用され、継続して取り組んでいます。岡山市から、初年度8割補助で、翌年度から5割補助となっています。

(1) 事業の目標及び目標の達成について

まずは根本的な課題であった有害獣被害対策の捕獲駆除は、猟友会駆除班にお世話になり、町内会会計年度の1月末現在、町内での捕獲イノシシは、29頭という状況です。農作物への被害は続いています。比較的抑えられていると思われます。R4年度もなめすことが可能な皮を提供いただきました。

目標とした「大切な自然の恵みが身近に存在するということを知り、ワークショップ的に活用し、より地域に対する愛情、誇り、アイデンティティの醸成などにつないでいく。併せて、それらの資源を加工・販売し、町内に収益として還元できる可能性を探る。」でした。コロナ禍でしたが、健闘したと言えると思います。残念ながら、R4年度は「産地牟佐」ニホンミツバチの蜂蜜をゲットできませんでしたが、引き続きチャレンジをお願いしています。

続くコロナ禍で、「食」を中心とした事業の開催はできませんでしたが、獣皮を活用した「産地牟佐塾」だけは、ほぼ毎週開催し、「産地牟佐」イノシシ革製品づくりに取り組みました。「(2) 事業経過」のとおり、数々の機会に積極的に参画しました。R4年度も想定を超える販売金額となりました。



2021年6月~放送活動紹介動画

もう一つの目標の「地域に受け継がれてきた『産地牟佐』手づくりみその文化の灯を消すことなくその伝承を事業の目的に位置付けたい」については、R3年度から区づくり推進事業として位置づけた手づくりみそ教室の開催について、R4年度も町内回覧にて募集し、世代を超えて参画いただいた34名が R5年1月のほぼ1カ月をかけて、順番にみその仕込みを進めました。30年以上使用してきた自動発酵機が故障し、新たにリースとして最新の機械を導入(補助対象)することができました。



10月16日手づくりみそ教室説明会

(2) 事業経過

年 月 日	内 容
毎 週	ほぼ毎週木曜日の午後、「産地牟佐塾」を開催し、イノシシ革加工製品づくりに取り組む。
令和4年3月18日	西遊旅行(東京)の古墳ツアー受け入れ。北は北海道から南は九州までの8名+添乗員1名。終了後、公民館にて「産地牟佐」のイノシシ革製品を販売するとともに、ワークショップを楽しんでいた。
令和4年10月8日～ 10月9日	岡山刑務所において、4年ぶりに開催された矯正展に、町内会として2日間出店し、「産地牟佐」イノシシ革製品を販売するとともに、これまで廃棄されてきた獣皮を資源と捉え有効活用する取り組みの紹介とともに、イノシシ革に親しむワークショップを実施し、その理解増進に努めた。
令和4年10月16日	町内会回覧にて募った「産地牟佐」手づくりみそ教室参加希望者に説明会開催。世代を超えて約30名の参加があった。
令和4年10月24日～ 10月25日	岡山市役所1階ロビーにて二日間開催された野生鳥獣・林業振興パネル展に二日間出店し、「産地牟佐」イノシシ革製品を販売するとともに、これまで廃棄されてきた獣皮を資源と捉え有効活用する取り組みの紹介とともに、イノシシ革に親しむワークショップを実施し、その理解増進に努めた。
令和4年11月13日	町内会住民を対象として、「産地牟佐」のイノシシ革を材料として、4年ぶりに大人のレザークラフト教室を開催。参加者は約30名で、指導するのは作品作りを進めてきた地元「産地牟佐塾」の皆さん。この日は山陽新聞の取材もあり、その記事は11月15日付の岡山市民版で掲載、紹介された。
令和4年11月25日	区づくり推進事業である「産地牟佐」の取り組みが、令和3年度備前県民局より地域づくり推進賞を受賞している。その受賞団体の代表として、伊原木県知事との「生き生きトーク」への出席案内があり、出席。
令和4年11月27日	牧山クラインガルテン収穫祭での「産地牟佐」イノシシ革製品の販売および獣革に親しむワークショップを開催するとともに、これまで廃棄されてきた獣皮を資源と捉え有効活用する取り組みの紹介とともに、イノシシ革に親しむワークショップを実施し、その理解増進に努めた。
令和4年12月4日	「牟佐大塚古墳と歴史の道ウォーク ver.4」参加者に、「産地牟佐」イノシシ革特製タグを記念品として配布するとともに、「産地牟佐」イノシシ革製品の販売と獣革に親しむワークショップを開催
令和5年1月6日～ 1月31日	「産地牟佐」手づくりみそ教室の開催。約1か月間、JA岡山女性部の指導をいただきながら34名がみそづくりにチャレンジ。



10月24日市役所1階ロビー



1月9日みそ加工所



11月27日牧山クラインガルテン収穫祭

(3) 大人のレザークラフト教室

「産地牟佐」にこだわった事業を着実に継続し、11月13日には、4年ぶりとなる大人のレザークラフト教室を開催できました。公民館にて「産地牟佐」のイノシシ革を使用してマイ小銭入れ

作りに挑戦。猟友会駆除班の高橋さん(桜西)の協力で、元々廃棄されていた獣皮を廃棄することなく、一般の住民が活用できるという取り組みが実現しています。約30名の参加者にアドバイスいただくのは、加工技術を磨いてきた「産地牟佐塾」のスタッフです。この日は、山陽新聞の取材もあり、同月15日付の岡山市民版に紹介されました。

2022年(令和4年)11月15日 火曜日 岡山 34

岡山 Okayama
岡山市民版

電子版なら他の地域版
山陽新聞デ
<https://www.san>

駆除イノシシの皮で小銭入れ
命を無駄にせず活用
牟佐町内会 住民らクラフト教室

岡山市北区牟佐の牟佐町内会は13日、町内で捕獲、駆除されたイノシシの皮を使って小銭入れ作りを体験するレザークラフト教室を地元の北公民館牟佐分館で開いた。地域資源を生かして魅力発信……

完成した小銭入れ

町内で捕獲、駆除されたイノシシの皮で小銭入れを作る参加者

用法を検討。2017年から皮で財布やスマートフォンケースなどを製作するようになり、2年ほど前から販売にも挑戦中だ。市が住民の活動を支援する「区づくり推進事業」も利用している。

13日の教室には住民ら約30人が参加。あらかじめ小銭入れに必要な大きさに切り取られた皮を手に取り、両面テープなどで貼り付け、縁を丁寧に手縫いするなどして完成させていった。

町内会の黒岩正男副会長(82)は、イノシシの革製品について「軽くて丈夫で、摩擦にも強い」と使い心地の良さをPRしつつ「自然の恵みに感謝し、地域の盛り上げにつなげていきたい」としている。(三宅信行)

イノシシによる農作物被害が後を絶たない町内では、おりを設けたり、狩猟免許を持つ住民が捕獲したりして駆除。今年は13日時点で20頭だが、過去には年間50頭以上という。有害獣とはいえ、命を無駄にしないよう活用を図る町内会を中心とした活動「産地牟佐」の一環。

(4) 牟佐っ子子ども教室 : 子ども会と協議した結果、昨年に続き、コロナ禍をふまえ中止しました。

7 牟佐公園トイレ掃除

ほぼ毎日の清掃を実施しています。町内会が市と委託契約をし、シニアクラブ牟佐(鏡原会長)へ再委託。市との契約では月に5回以上実施ですが、シニアクラブ牟佐の皆さんは、週に6回実施。お陰様で、きれいなトイレを維持し大変に好評です。

なお、牟佐公園全体の清掃はシニアクラブ牟佐が市から直接委託を受け、毎月の清掃活動は、きめ細かい対応がなされています。さらに、落書きを消したり、固まった砂場を耕運機で耕したり、砂場の蟻を除去したりと、細かいところまでお世話いただいています。



5月28日シニアクラブ牟佐の清水英夫さん(旭)による砂場の手入れ作業

8 県知事との生き生きトークに参加

備前県民局より「地域づくり推進賞」を受賞した団体と県知事との生き生きトーク(玉野市)への案内があり、11月25日に出席しました。自然豊かな牟佐を紹介するとともに、町内会に対する行政のかかりと、民間分野での町内会に対する認知度が高まることへの期待を発言してきました。翌日の山陽新聞で紹介されました。

岡山・2022年11月26日(土)

地域活性化で意見交換

玉野で知事と生き生きトーク
空き家問題や人口減少

県民と伊原木隆太知事が直接対話する「知事と一緒に生き生きトーク」が25日、玉野市築港の産業振興ビルで行われた。学校教育のサポートや移住支援など特色ある活動で備前県民局の「地域づくり推進賞」を受けた6団体の代表が参加し、地域活性化の方策を巡って意見交換した。



知事と地域活性化の方策について意見を交わす参加者

玉野商工高の実習支援で実績を上げる宮原製作所(玉野市宇野)の宮原一也会長は人口減少、少子高齢化を踏まえ、「人が住み、勤める玉野にするための施策が一層求められる」と指摘。玉野への移住体験ツアーなどを催すのづくり実行委員会の森美樹代表は、入居できる物件の選択は「住民の意見は危機

は「住居の意見は危機意識に裏付けされておらず、空き家は多いという現状から、「空き家所有者に行動を促す動機づけが必要」と訴えた。

牟佐町内会(岡山市北区)の田尻祐二会長は「玉野市出身の漫画家は「住居の意見は危機意識に裏付けされておらず、空き家は多いという現状から、」

重要なものばかりだとして進めたインシシ駆除が、ジビエ料理などに使う取り組みにつながったことを紹介した。

11/26

©山陽新聞社 無断複製転載を禁じます。

明るい家庭、最優秀小

岡山市青少年健全育成大会(市青少年育成協議会、市主催)が22日、中区桑野の岡山ふれあいセンターであり、明るい家庭づくり

の作品によるまちおこしに取り組みNPO法人たまのの企画の伊達元英理事長、高齢者の移動支援を手がける吉備中央通所付添サポート協議会(同町)の清水美恵子代表、近隣の小学校で科学の出版前授業を行う岡山村田製作所(瀬戸内市)の佐々木俊和社長も発言した。

知事は「空き家や人口減少といった課題はどの地域にも共通する。熱意ある意見を受け、活力ある地域づくりの参考にしたい」と話した。(多田和代)

作品によるまちおこしに取り組みNPO法人たまのの企画の伊達元英理事長、高齢者の移動支援を手がける吉備中央通所付添サポート協議会(同町)の清水美恵子代表、近隣の小学校で科学の出版前授業を行う岡山村田製作所(瀬戸内市)の佐々木俊和社長も発言した。

9 春の一斉道・溝掃除(6月5日)、秋の一斉道掃除・岡山市クリーン作戦(9月25日)

予定通り、全地区で実施してきました。6月5日の石原川下流域(刑務所東付近)の清掃については、官舎地区からも大勢の応援をいただいて無事故で清掃が完了しました。



10 土のうの作り替えと置き場の移動

これまで土のうが劣化する前に作り替えをしてきましたが、6月5日に官舎地区にも多数の協力をいただき全面的に作り替えをしました。併せて、岡山市の許可を得て、浸水の可能性が低く、直射日光の当たらない新大原橋の下を新たな土のう備蓄場所として決定し、新しい土のう約500個を移動させました。



土のうの作り替え作業



以前の置き場（牟佐公園の南）から積み込み移動



新しい土のう置き場（新大原橋の下）

11 避難所について

ハザードマップの見直しを受けて、令和4年から牧石小学校が指定避難所となりました。7月23日、牧石学区連合町内会として小学校の現地確認をしました。黒岩副会長が代理出席。

※ 令和2年10月18日(日)、3町内会自主防災組織(牟佐、大原、大久保)合同で、環太平洋大学第2キャンパスへ初の避難訓練を実施しました。令和3年度は、旭川の西側の玉柏3町内会(宮本、河本、平瀬)が合同で、前年同様の避難訓練を予定しましたが、日程調整つかず未実施。牟佐町内会としては、令和2年に参加できなかったであろう高齢者を中心にタクシー(マイクロバス)を使っでの避難の試行を検討していましたが、同様に未実施です。

12 自主防災組織について

令和元年6月30日付で結成した牟佐町内会自主防災組織。地区会長と町内会四役で構成しています。令和4年度は、市より新しい牧石学区ハザードマップのデータの提供を受け、学区で協力して印刷、全戸配布しました。

13 岡山市からの貸し出し用ポンプを借り受け

かねてより要望していた貸し出し用ポンプが、8月19日に到着し、大原排水機場の北側への設置と試運転を、大原町内会と合同で実施しました。11月12日には吸水管を引き上げ、ポンプを格納しました。牟佐町内会のポンプ操作員として次の5名に引き受けていただきました。

- 安藤寿史さん(旭)
- 住矢明彦さん(大塚)
- 行安茂樹さん(昭和会)
- 植田輝義さん(アグリ)
- 小林弘直さん(久保田)

14 第18回町内会運動会
コロナ禍をふまえ中止

15 第13回牟佐ほのぼの文化祭
コロナ禍をふまえ中止

16 「産地牟佐」もちつき大会
コロナ禍をふまえ中止

17 牧石学区敬老会・友愛訪問(弁当配布)への準備等協力
準備等協力は進めましたが、敬老会はコロナ禍をふまえ中止されま
したが、友愛訪問は実施されました。

18 パソコンと遊ぼう
コロナ禍をふまえ、ほぼ中止

19 イキイキ牟佐21(カラオケ)
コロナ禍をふまえ休止してきましたが、再開しました。

20 憩いの広場(毎週木曜日午後)
コロナ禍をふまえ休止してきましたが、再開しました。

21 刑務所矯正展(10月)が4年ぶりに再開。地元町内会として、うどん販売はないものの、新鮮野菜
や「産地牟佐塾」のイノシシ革製品販売とワークショップを実施しました。



向こうに見える建物が大原排水機場
(旭川の堤防より撮影)



矯正展会場に臨む産地牟佐塾メンバー



「産地牟佐」新鮮野菜コーナー



好評の「産地牟佐」イノシシ
革加工ワークショップ

22 有害獣被害対策としての捕獲・駆除

猟友会駆除班が、箱ワナ、くくりワナを全域で細かく対応。この数年は鹿も駆除するようになりました。住民からのSOSに対して、被害の現地調査については、猟友会駆除班（寿：住矢一さん、桜西：高橋明さん）に、捕獲柵設置・撤去は住民有志の応援も。日常の捕獲柵の見回り等では、豊久さん（本町）ほか地元住民に、捕獲・処理は猟友会駆除班に全面的に協力いただき、黒岩副会長も捕獲後の手伝いに協力いただいています。令和4年度はイノシシ29頭、ハクビシン2匹捕獲。町内会としては、現在、大型捕獲柵を3基、小型檻2基を所有し、活用しています。

駆除班が捕獲したイノシシや鹿については、産地牟佐分については皮を町内会に提供いただきましたが、町外捕獲分についても廃棄するよりも活用ができればとの考えで一部提供いただきました。



写真は R3 年 5 月 29 日、修理後の組み立て作業風景



23 屋外拡声器の活用

防災行政無線の屋外拡声器が牟佐公民館と白鷺公民館に設置されています。白鷺公民館は緊急告知 FM ラジオと接続したもので、毎月第一金曜日に試験放送が行われています。単独利用も可能であり、牟佐公民館では、町内会のイベント案内にも活用しました。

24 防犯カメラの管理

西条地区（新大原橋下）、白鷺地区（前原池土手）各1基を市の補助（3分の2）を受けて設置・管理しています。令和4年度は、警察からの協力依頼があり、3回データを提供しました。

25 防犯灯の新設・更新

LED 化された防犯灯ですが、寿命10年と言われていています。切れた場合は、灯具全体を交換しなければなりません。費用は1灯約2万円です。新設・更新、いずれも市の補助金額は1万円です。令和4年度は3灯を新設、4灯更新設置し、1月末現在で169灯を管理しています。ポール設置から必要な場合は設置費用が高額になるため、令和5年度から当面の設置を見合わせることにしました。

26 スズメバチの巣の撤去補助

市の管理区域内であれば、通報により市が即時処理しますが、民地内については、手を出しま

せん。そのため、当初、町内会が全額補助し撤去していましたが、会計への負荷もあり、徐々に補助率を下げて、現在は5割補助としています。特に一人暮らしの方で、屋内にスズメバチが巣をつくり、部屋の中にとくさん飛んでいたケースもあり、業者の手配等、町内会がお手伝いさせていただきました。

27 行政等（市、県・警察、国、宇野バス、開発事業者等）への要望活動

各地区からの行政機関に対する要望は、まず、当局の現地立会を求め、その後、要望書を提出しています。農業用水路や農道などの農業施設については、農業水利土木員の長崎町内会副会長を通して要望対応を実施しました。

28 岡山刑務所との連携

コロナ禍以前は、毎年、町内会運動会への参加、夏まつり開催、矯正展でのうどん販売等、テント借用（町内会イベントへ）、刑務所内見学の実施などの連携がありました。中止が続きました。

しかしながら、道・溝掃除への参加、周囲の照明の点灯ほか防犯対策、地元推薦の刑務所視察委員に安藤洋一さん（寿地区）を推薦などは例年通りでした。市との協定避難所として平成30年豪雨災害時には、避難所の開設をいただきました。

令和4年10月には、4年ぶりの矯正展開催となり、町内会も参画（上記21参照）させていただきました。さらに、お正月には公民館に見事な門松の設置もいただきました（写真参照）。



（平成30年7月豪雨災害による浸水被災後に、空になった備蓄土のうを復旧させる同年8月の土のうづくりの応援をいただいた。）



29 特別養護老人ホーム「牟佐げんき」との連携

コロナ禍が続き、訪問はすべて見送りとなっています。（本年2月の町内会役員会議には久しぶりに施設長による現況説明をしてもらいました。）

コロナ前は、町内会イベントへの参加をいただけてきました（例年の町内会もちつき大会では、焼いもコーナーを重実施設長に担当いただき、サツマイモから道具まですべての提供を受けている。運動会では車いす4脚を借用）。町内会からは、施設の運営推進会議（年4回）への出席、施設内イベント（夕涼み会、敬老会ほか）への参加などがありました。コロナ禍以降、町内会として、書面にて行われる運営推進会議に参加しています。

令和3年度から、町内会における災害時要支援者への個別支援計画の作り方等で相談。今後の対応について、アドバイスをいただきながらの協議を進めています。

30 マイナンバーカード申請出張サポートin 牟佐

岡山市が積極的に推進しているマイナンバーカードの出前申請について、牟佐町内会として、9月～10月にかけて、公民館で4日間開催してもらいました。申請受付は合計87人でした。



31 牟佐地区こども園整備について

岡山市では、現在の牟佐保育園を移転し、認定こども園として社会福祉法人か学校法人に運営移管することを準備しており、町内会としても協力してきました。開催した日程は次のとおり。

11月20日 牟佐地区こども園整備について、地域の関係団体の代表に説明

12月18日 牟佐地区こども園整備に係る協議会の設立

1月15日 同協議会設立について、地元近隣地域への説明

1月22日 同協議会第2回会議

岡山市は、地元の意向を踏まえて、法人募集の準備に入った。

牟佐地区こども園整備に係る協議会構成員は次のとおり。

		2022/12/2現在
牟佐地区こども園整備に係る協議会構成員名簿		
No.	役 職	氏 名
1	牟佐町内会長	田尻 祐二
2	牟佐町内会副会長	黒岩 正男
3	牟佐町内会副会長	植田 昌太郎
4	牟佐町内会副会長	長崎 由憲
5	牟佐町内会庶務	豊久 寿子
6	牟佐町内会会計	植田 洋子
7	牧石学区社会福祉協議会副会長	須々木 巧
8	牧石地区主任児童委員	明石 真由美
9	牧石地区主任児童委員	大塚 邦江
10	牧石地区民生委員・児童委員	浜田 孝子
11	牧石地区民生委員・児童委員	長寿 和子
12	牟佐愛育委員会会長(牟佐町内会婦人部長)	藤本 孝子
13	牧石小学校PTA会長	時末 隆
14	牟佐保育園保護者会副会長	松尾 友加
15	牧石学区交通安全母の会会長	赤澤 佳代子
16	牟佐町内会子ども会育成会会長	山崎 恵利子
17	シニアクラブ牟佐会長	鏡原 憲二
18	牟佐町内会宮ノ下地区会長	坊野 純一
19	牟佐町内会太戸地区会長	高田 幸持
20	牟佐町内会昭和会地区会長	藤井 嘉文
21	牟佐町内会旭川地区会長	中力 啓太
22	地権者代表	長崎 勝
23	牧石小学校校長(オブザーバー)	森 和久
24	牟佐保育園園長(オブザーバー)	齋藤 早苗



1月15日近隣地域への説明会



1月22日第2回協議会

32 軽四輪トラックの活用

令和2年に寄贈を受け、保有している軽トラを活用しています。令和4年度も、町内会一斉清掃や資源化物の運搬等に活用しています。



6月5日土のうの運搬に活躍する軽トラ

33 資源化物の収集

リサイクル推進委員の福田さん(寿)が中心となり、黒岩副会長と一緒に、資源化物の収集、運搬等に尽力いただきました。

34 リサイクル推進委員の推薦:

定員3名。令和3年度から2年任期。現在は、大塚:安藤惣一郎さん、寿:福田順二さん、白鷺:森本稔さんの3名。任期は2年間(再任可)で、令和5年3月末まで。

35 牟佐まちづくり協議会

令和4年度は、コロナ禍をふまえ中止

牟佐町内にある、すべての地域関連団体を構成員として毎年1回協議している。

36 無線機(トランシーバ)の活用

①一斉清掃 ②歴史ウォーク等で活用した。台風接近時等には、会長、副会長宅へ持ち帰り、災害に備えています。町内の地域団体への貸出は了としています。



37 警察学校との連携

町内会から、入学式、卒業式、講習会等への出席。

令和4年度もコロナ禍により、地域からの出席は見合わせとなっています。

38 日本赤十字社の会費集金

毎年、日赤会費の集金は、牟佐婦人部に委託しています。



39 古墳ツアー受け入れ

西遊旅行(東京)の古墳ツアーを初めて受け入れました。事前の情報では、北は北海道から南は九州までの8名が参加+添乗員1名で、山口県から兵庫県まで古墳だけをめぐるとのこと。牟佐大塚古墳をPRする良いチャンスと考え受け入れることとしました。公民館にて平井さん(渡場)から大塚古墳などの歴史をレクチャー(写真上)。大塚古墳では、シニアクラブ牟佐(鏡原会長)が古墳内を投光器で照らしての説明をいただきました(写真下)。公民館では「産地牟佐」のイノシシ革製品を販売し、お



西遊旅行の古墳ツアー受け入れ協力

買い求めもいただきました。

40 岡山市歴史のまちしるべ看板活用

①林原古墳群 ②牟佐渡場 ③前原池北古墳(高月台地区)について、令和4年度も、歴史ウォーク等、町内会として活用しました。

※ 平成30年3月に設置完了しました。看板は、町内会が提出した資料等参考にしながら委託業者が文面等デザインを作成。業者と町内会とで、何度もやり取りし決定したもの。平成31年度は、牟佐大塚古墳の日本遺産認定をPRする歴史ウォークで活用。以降、毎年開催してきた歴史ウォークでも活用しました。さらに牟佐のアイデンティティ(牟佐らしさ)を高めることに活用したいと思います。

なお、前原池北古墳のある土地を保有し管理しているのは、団地を開発した業者で、現在は双日㈱です。

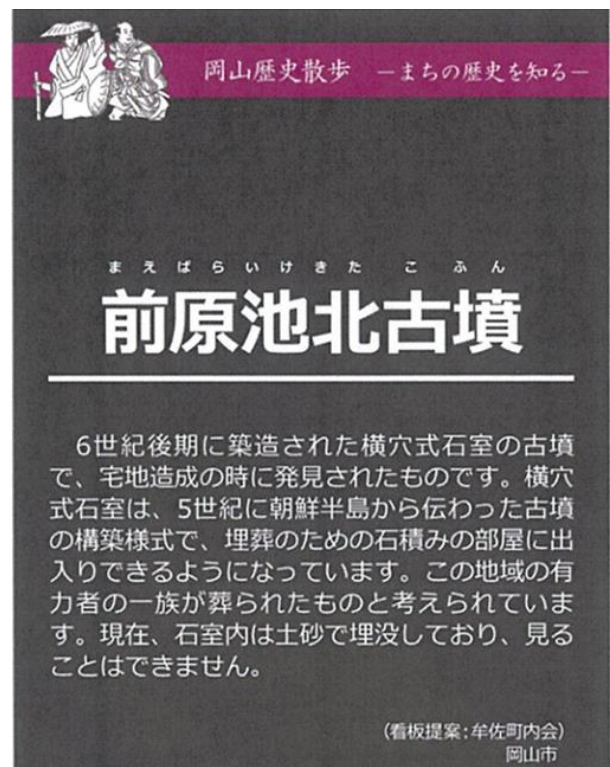
①



②



③



岡山歴史散歩 —まちの歴史を知る—



む さ わ た し ば

牟佐渡場



岡山県歴史博物館蔵 岡山市に伝わる古地図の複製品。資料：岡山大学付属図書館蔵

古代から近世まで、牟佐渡場は陸路と水路が交差する交通の要衝で、山陽道や倉敷（林野）往来の渡船場・宿場町として、船番所や旅籠、土産物、雑貨等の店が軒を連ねていました。当地は現在も「渡場」と呼ばれており、脈わっていた当時の店の名称などが民家の屋号として複数残っています。

平成27年度岡山市区づくり推進事業「古代山陽道の復元と伝承」では、牟佐町内会がこれらを調査し、記録として残す取り組みを行いました。

(看板提案：牟佐町内会)
岡山市

岡山歴史散歩 —まちの歴史を知る—



は や し ば ら こ ぶ ん ぐ ん

林原古墳群



図の出版：岡山県埋蔵文化財調査報告書（1990年3月）

6世紀後半から7世紀前半に築かれた、直径十数メートルの円墳が8基あります。県道工事の際の発掘調査で、5号墳の横穴式石室から杯や平瓶（液体を入れる容器）などの須恵器、ガラス玉や耳輪などの装身具、鉄の鎌や太刀の鞘金具といった武器類が出土しました。

牟佐は東西陸路と南北河川交通の結節点で、巨大石室をもった牟佐大塚古墳（国指定史跡）とともに、この地域が古墳時代後期に繁栄したことを物語る貴重な古墳です。

葬られているのは、舟を浮かべて旭川の水運を担った有力者一族かもしれません。

(看板提案：牟佐町内会)
岡山市

<我が町ひとこと紹介>

我が町内

「古代山陽道が通るまち」

